

「盲人のいやし」

2015年11月11日

ルカによる福音書 18章 35節～43節。イエスがエリコに近づかれたとき、ある盲人が道端に座って物乞いをしていた。群衆が通って行くのを耳にして、「これは、いったい何事ですか」と尋ねた。「ナザレのイエスのお通りだ」と知らせると、彼は、「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と叫んだ。先に行く人々が叱りつけて黙らせようとしたが、ますます、「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください」と叫び続けた。イエスは立ち止まって、盲人をそばに連れて来るように命じられた。彼が近づくと、イエスはお尋ねになった。「何をしてほしいのか。」盲人は、「主よ、目が見えるようになりたいのです」と言った。そこで、イエスは言われた。「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った。」盲人はたちまち見えるようになり、神をほめたたえながら、イエスに従った。これを見た民衆は、こぞって神を賛美した。

エルサレムに行くためには、麓の町エリコから上って行く。主イエスと弟子たちの宣教団はエリコまで来た。この町に住む一人の盲人がいつものように道端に座り、物乞いをしていた。彼は、群衆がいつもとは違う緊張した足取りで通り過ぎて行くのを耳にして「これは、いったい何事ですか」と問うと、「ナザレのイエスのお通りだ」と知らされた。すると、彼は声を張り上げ「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください」と叫んだ。弟子たちは、主イエスが毅然とした姿でエルサレムに向かっていくことから、これから重大な事が起こると期待していた。そのような時、盲人に手間取ってはならないと、叱りつけ、黙らせようとした。しかし、彼はますます「憐れんでください」と大声で叫び続けた。主イエスが、病人を癒される奇跡を行っていると聞いて、この時を逃すまいと必死で呼びかけたのである。盲人の叫びを聞かれた主イエスは立ち止まり、呼ぶように命じられた。彼は喜んで、主イエスの傍に来た。主イエスは「何をしてほしいのか」と尋ねた。彼は即座に「主よ、目が見えるようになりたいのです」と答えた。盲人に直接聞かなくても、彼の望みは分かっているはずである。しかし、あえて「何をしてほしいのか」と問うている。彼は「目を開けてください」と真っ直ぐに答えている。盲人は主イエスに真正面に向き合っている。主イエスは「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った」と宣言された。すると、すぐに彼の目は見えるようになり、神をほめたたえながら、主イエスに従って行った。この奇跡を間近に見た民衆は皆、神を賛美した。

聖書は現実には、あり得ない奇跡を淡々と書いている。そのままを信じる必要はないであろう。心に強い願いを持つ者を顧みてくださるという「キリスト告白」からのメッセージではないだろうか。ヨハネ福音書9章に、生まれつき目の見えない人が主イエスによって、目が見えるようになった奇跡を記している。その最後で、主イエスは「見えなかったのであれば、罪はなかったであろう。しかし、今、『見える』とあなたたちは言っている。だから、あなたたちの罪は残る」と語っている。私たちは見えていないのに「見える」と言い張る罪に陥っている。これが、現実である。ところが、主イエスは「わたしがこの世に来たのは、裁くためである。こうして、見えない者は見えるようになり、見える者は見えなくなる」と言い、主イエスを通して、見えるようになると告げている。何がどのように見えるのであろうか。自分の罪と過ちを知り、隣人の苦悩が見えるようになるということであろう。この開かれた目が共にある平和を作り出していくのである。